

演題

大分県におけるアウトリーチ型支援の一事例
—『居場所ツドエバ』の実践を通して—

発表者

お悩みコンシェルジュEndne(エンデネ) 公認心理師 ふせ

2枚目のスライドに進みます。

発表者の自己紹介です。

私のことは「ふせ」、または「ジュン・チャン」と呼んでください。青森県出身です。前職では障害者雇用に関する専門職として国の組織で働いていました。転勤で大分県に至り、退職しています。2023年当時、大分県内でセクシュアリティも含めて対応できる社会資源が当時ほぼなかったことから、『お悩みコンシェルジュEndne(エンデネ)』を立ち上げました。スクールカウンセラーとして、小学校、中学校の現場にも入った経験があります。現在はおおいた地域若者サポートステーションでも勤務しています。

自身のセクシュアリティについては、ノンバイナリー、Xジェンダーがしっくりきています。

3枚目のスライドに進みます。

大分県内の状況についてです。

2007年頃から『伝書鳩の会』による交流会が開催され、

2013年には『虹色おおいた』による交流会、

2017年からは『虹色おおいた』からの流れで『SOGIE(LGBT)サポートチーム ココカラ!』による交流会へと繋がっていきます。

2019年から、新型コロナウイルス感染症をきっかけに、交流会が途絶える状況が続きます。

新型コロナウイルスが終息しつつあった2023年から状況が変わります。

2月から包括的性教育に関する活動をされている助産師さんが主催する『性のお話ができるおへやmami25』の主催で『レインボーバトン』(学びの場)がスタートしました。

8月には『SOGIE(LGBT)サポートチーム ココカラ!』から引き継ぐ形で『はろっと! おおいた』主催の交流会がスタートします。

そして10月からは当方主催の『モヤるユースの居場所ツドエバ』がスタートしました。

2024年には大分県委託事業による交流会『にじカフェおおいた』も開催されています。

4枚目のスライドに進みます。

当方が『居場所ツドエバ』を始めたきっかけについてです。

きっかけは大きく3つありました。

1つは開業の挨拶に行った先々でユースの居場所作りを勧められたことです。

当時は「10代、20代の方に関わる居場所だなんて、自分には重責だ!」と感じていました。

2つ目は学校現場へスクールカウンセラーとして働きだしたことです。

学校現場で働くなかで、3つのことを課題として感じました。

1つは「子ども」が一人で移動することの難しさ。

2つ目は、移動の難しさによる家庭、学校以外の逃げ場の持ちづらさ。

3つ目は、人生の早い段階で「誰かに相談する・話す・頼る」スキルを身に着ける重要性です。

きっかけの最後は、自分自身が大学卒業後、働きだしたとき交流会に助けられ、支えられた体験を思い出したことです。

これら3つのきっかけにより、2023年8月から、周りの方に相談しながら居場所作りの準備を始めました。

5枚目のスライドに進みます。

居場所を始める準備として、「セーフガーディング」について勉強しました。

「セーフガーディング」とは、子ども・若者の権利を守るために、組織として、また関わるスタッフが

行動として気を付ける包括的な取組みのことを指します。
詳しくはセーブ・ザ・チルドレン様の資料をお読みください。
セーブ・ザ・チルドレン

https://www.savechildren.or.jp/about_sc/pdf/childsafeguarding_3.pdf

6枚目のスライドに進みます。
「セーフガーディング」について勉強した上で、スタッフの規約や居場所のルールを作成しました。
特に、一般社団法人にじーず様、虹色ダイバーシティ様の『レインボー・ガーディング』を参考にさせていただきました。
一般社団法人にじーず https://24zzz-lgbt.com/blog/safe_guarding/
虹色ダイバーシティ『レインボー・ガーディング』 <https://nijiiversity.jp/2539/>

7枚目のスライドに進みます。
2023年10月、大分市内の開催からスタートしました。
当初は対象を幅広く設定していました。
当時の案内文では次のように記載しています。
・ご自身のセクシュアリティ等についてモヤッとしている、揺らいでいる、25歳以下の方。
・上記の方のご家族や、関係者の方。
「相談する・話すハードルを下げる」ことを目的としています。
メインターゲットは「ユース」「セクシュアリティ」のご相談ですが、それ以外にもお気軽にご活用いただけたらと思っています。」

8枚目のスライドに進みます。
参加費は25歳以下無料、26歳以上は寄附としました。
大分市、由布市、宇佐市、中津市の4か所で実施し、子ども・若者に関する支援をしている団体、お店で開催しました。月2～3回、土曜日午後で開催しました。
2025年1月からは名前を「モヤるユースとその周りの方へ贈る居場所『ツドエバ』」へ改称しました。
大分市、由布市、中津市の3か所で実施しました。
2025年10月からは対象を場所毎に絞って開催しています。
大分市内での開催はLGBTQ+、由布市内では、不登校状態の児童・生徒、その保護者という形です。

最後のスライドです。
課題とそれに対する取組みについてです。
一つは周知についてです。
県教委、市教委を通じての学校へチラシを配布してもらいました。
開催場所近くの学校へ直接案内を持参することもありました。
講演先や置いてもらえる場所に、カードを設置してもらい取り組みもしています。

二つ目は交流についてです。参加人数が3～5人の時もあれば0人の時もあり、バラつきがあります。最後に書いてもらうアンケートでも「もっと他の人と交流がしたかった」「同世代と話したかった」と書かれることがありました。

三つ目はセーフガーディング、コンプライアンスの限界です。一人で動いているため、ご協力いただいている場所の方もいる等、複数人が周りにいる状況をつくるよう気を付けています。

四つ目は継続していくことです。各エリアで月1回程度の開催を継続していますが、開催が難しい月はお休みすることもありました。今後も状況によっては長期休暇のみ開催する、自団体での開催が難しいときには他の団体に委ねる等、地域のなかで居場所・交流会が継続していくことが大事だと考えています。

報告は以上になります。
ご清聴ありがとうございました。

発表者連絡先

メール: 114endne@gmail.com お悩みコンシェルジュEndne(エンデネ) ふせ